

令和7年度 向栗崎小学校評価報告書

(各校の実態に応じた学校評価書)

①よくあてはまる

③あまりあてはまらない

②あてはまる

④まったくあてはまらない

重点 目標	主な具体的取組	現状	評価の観点	評価方法	実施状況の 達成度判断基準	評価	①	○成果 ◆課題 ・改善策
学力の 向上	自ら考え、学び合う児童の育成	児童が課題を決めたり学び方を選んだりして、見通しをもって問題解決を行う姿が求められる。	子供主体の授業を目指し、「向栗崎小授業スタイル」に基づいた授業を実施している。（努力目標）	教職員アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	学習 A 100%	31.3%	○「向小授業スタイル」を子供主体となるよう、「課題の設定、情報の収集、整理・分析、まとめ・表現」という学びのプロセスにすることで、子供主体の授業づくりへの意識を高めることができた。児童も「授業は分かりやすい」という実感を得ることができた。 ○主体的に取り組むための自己決定の場の工夫について学年会で話し合う場を設け、手立てを講じたり、有効であったかを振り返ったりすることができた。 ○児童が考えをもつ場面や友達と交流する場面でICTの活用を意図的にを行い、1人1台端末で考えを共有したり、相互参照したりすることができた。
			主体的に取り組むための自己決定の場の工夫をしている。（努力指標）	教職員アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	学習 A 100%	50%	
			学びや変容を自覚するための工夫をしている。（努力目標）	教職員アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	学習 A 93.8%	25.0%	
			授業を通して、できることが増えたり、考えがより深くなったりした。	児童生徒アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	学習 A 94.4%	68.1%	
	授業力の向上（町）	課題に対し、粘り強く取り組もうとはしているが、問題解決の見通しをもち、根拠や理由を示すなど、より効果的な表現方法を工夫するまでには至っていない。	児童・生徒が「わかった」「できた」を実感できる授業をしている。	教職員アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	学習 A 100%	18.8%	◆学力調査の結果から、基本的な知識・技能の習得が不十分であるといえる。問題の題意を理解し、適切に解答することができていない。 ◆児童アンケートや保護者アンケートの結果、家庭学習の定着に対する肯定的評価が低く、家庭学習の定着が不十分であるといえる。また、家庭学習が定着していない児童が固定化している。ゲームや動画視聴の時間が長い児童も多い。
			学校は、分かりやすい授業づくりや学力向上に努めている。	保護者アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	学習 A 97.4%	52%	
			授業は分かりやすい。	児童生徒アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	学習 A 94.4%	67.4%	
	家庭学習の定着（町）	家庭での学習習慣が身に付いていない児童がいる。	家庭学習の習慣が身につくように指導している。	教職員アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	学習 A 100%	40%	・それぞれの児童の学び方を見取り、単元のゴールに向かって見通しをもち、主体的に取り組むことができるような指導・支援を工夫し、よい姿を価値付けていく。 ・各教科で基礎的・基本的な学習用語の定着を図るとともに、言語活動や適用問題を行う時間を確保し、児童の「わかったつもり」を確かな「わかった」に変えていく。 ・生活プランニング週間では、メディアコントロールの取組を通してメディアに触れる時間を制限したり、家庭学習をする時間を確保したりするなど、児童への意識付けを図るとともに家庭と連携していく。
			我が子は、家庭学習の習慣が定着している。	保護者アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	学習 C 67.3%	25.3%	
			家庭学習の習慣が身についている。	児童生徒アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	学習 B 85.1%	55.8%	
	ICTの活用の推進（町）	1人1台端末を効果的に活用した授業が少ない。	1人1台端末を積極的・意図的に活用するよう工夫している。	教職員アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	学習 A 93.8%	37.5%	○昨年度と比較すると先生や友達から認めてもらっているという割合が高くなっている。友達の良さを伝え合う「ナイスレター」の取組による効果だと考える。 ◆ナイスレターをもらう枚数は、児童によって差があるので、工夫が必要である。 ・今後は、運動会で、低学年が高学年に「ナイスレター」で感謝の気持ちを伝える取組を行ったり、11月に学年で「いいところビンゴ」を行ったり、児童間で交流する場を増やして、児童の自己有用感を高められるようにしていく。
			授業中に1人1台端末を進んで使っている。	児童生徒アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が75％以上 C：①+②が60％以上 D：①+②が60％未満	学習 A 94.0%	66.2%	
豊かな心の育成	自分も友達も大切にする学級づくり	お互いのよさやがんばりを認め合う雰囲気はあるが、児童の自己有用感の高まりまでにはつながっていない。	児童が互いを認め合える具体的な取組をしている。（努力目標）	教職員アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	生徒指導 A 100%	56%	○児童の主体性のために、議題の工夫や学級会の目的別の進行マニュアルの使用など、学年の実態に合った学級会を行うための工夫等を行った ◆学年・学級の実態に応じた「学級会に進んで参加する姿」を児童と共有することが必要。 ・学級会の終末に、フォームや口頭で進んで参加できたかどうか児童が振り返る場を設定する。
			友達のよいところや頑張りを認めている。（成果指標）	児童生徒アンケート	A：①+②が80％以上 B：①+②が65％以上 C：①+②が50％以上 D：①+②が50％未満	生徒指導 A 91%	57.1%	
			先生や友達から認めてもらっている。（成果指標）	児童生徒アンケート	A：①+②が80％以上 B：①+②が65％以上 C：①+②が50％以上 D：①+②が50％未満	生徒指導 A 91.3%	57.7%	
	場をとらえた「あいさつ」指導の実施	あいさつには個人差が大きく、来校者や地域の方へのあいさつはまだできない児童も多い。	友達や先生、地域の方へあいさつが定着するように指導した。（努力指標）	教職員アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	生徒指導・ 特別活動 B 88.2%	64.7%	◆子供同士や地域の方への挨拶については個人差が見られる。 ・「ええあいさつ」のキーワードに「誰にでも」を追加して、どんな相手にも挨拶できる児童を育ていきたい。また、委員会等児童からの意見も取り入れながら、よりよい挨拶習慣が身に付くような取組を行っていく。
			子どもは家庭や地域で進んであいさつをしている（成果指標）	保護者アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	生徒指導 特別活動 B 84.7%	28.90%	
			先生、友達、地域の方へ自分から進んであいさつができる（成果指標）	児童生徒アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	生徒指導・ 特別活動 A 92.6%	60.60%	
	児童が主体となる学級会の実施	学級活動において、学級生活の中から課題を見出し解決するための方法や内容をみんなで話し合ったり、協力して実践したりする経験が少ない。	学級会に進んで参加できている（成果指標）	児童生徒アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	特別活動 B 86.9%	83.30%	○児童の主体性のために、議題の工夫や学級会の目的別の進行マニュアルの使用など、学年の実態に合った学級会を行うための工夫等を行った ◆学年・学級の実態に応じた「学級会に進んで参加する姿」を児童と共有することが必要。 ・学級会の終末に、フォームや口頭で進んで参加できたかどうか児童が振り返る場を設定する。
			学級会において児童の主体性をより伸ばす手立てを講じた。（努力指標）	教職員アンケート	A：①+②が90％以上 B：①+②が80％以上 C：①+②が70％以上 D：①+②が70％未満	特別活動 B 83.3%	86.90%	

	道徳教育の推進 (町)	授業参観での授業公開や学習履歴の掲示、お便りの発行等を行っている。	道徳の授業を中心に 豊かな心を育むよう努めている。	教職員アンケート	A : ①+②が90%以上 B : ①+②が80%以上 C : ①+②が70%以上 D : ①+②が70%未満	学習 A 100%	46.20%	○授業参観での授業公開や道徳コーナーによって、日々の授業の取り組みが保護者にも伝わっている。 ・夏休みの校内研修を通し、道徳の授業改善に努めることができるようにする。 ・2学期の公開週間や道徳だよりを活用し、家庭にも道徳の取り組みを発信していく。
			学校は、道徳の授業を中心に 豊かな心を育むよう努めている。	保護者アンケート	A : ①+②が90%以上 B : ①+②が80%以上 C : ①+②が70%以上 D : ①+②が70%未満	学習 A 97%	35.50%	
生徒指導の充実	教育相談体制の充実 (町)	いじめや不登校等の問題に対して配慮が必要な児童が数名おり、個に応じた指導の必要性が高まっている。	いじめや不登校等の問題に対して 組織的に取り組んでいる。(学校いじめ防止基本方針に基づく取組の実施状況)	教職員アンケート	A : ①+②が95%以上 B : ①+②が90%以上 C : ①+②が85%以上 D : ①+②が85%未満	生徒指導 A 93.8%	56.30%	○問題行動等何かあった際は管理職や生徒指導部に報告し、組織的に対応できている。保護者アンケート・児童アンケートに関しては、昨年度と比較して割合が高くなっている。 ◆こちらのアンケートだけでなく、アンテナを高くして、普段の様子や保護者からの訴えからいじめ案件かどうかを十分に判断していくことが必要である。 ・問題行動等の様々な事案に対して、大小関係なく迅速に対応していく。保護者への連絡は積極的に行い、情報共有を図る。今後も教職員間で情報共有するため、月初めの終礼で児童理解の場を設定していじめの未然防止に心がける。
			学校は、いじめや不登校等の問題の解決に向けて 積極的に取り組んでいる。	保護者アンケート	A : ①+②が90%以上 B : ①+②が80%以上 C : ①+②が70%以上 D : ①+②が70%未満	生徒指導 A 95.1%	36.30%	
			学校に行くのが 楽しい。	児童生徒アンケート	A : ①+②が95%以上 B : ①+②が85%以上 C : ①+②が75%以上 D : ①+②が75%未満	生徒指導 A 91.2%	65.80%	
健康と安全・安心して健やかな教育の充実	「早寝・早起き・朝ごはん」の育成を通した基本的生活習慣の確立	家庭への理解を図りながら、早寝、早起きの基本的生活習慣の定着により、目標の時刻までに寝ることができ児童を、より一層増やしていく必要がある。	児童が健康(生活プランニング)に気をつけて生活するための指導をした。〔努力指標〕	教職員アンケート	A : ①+②が90%以上 B : ①+②が80%以上 C : ①+②が70%以上 D : ①+②が70%未満	保健安全 A 100%	60.0%	○保護者と児童の数値が近づいてきている。昨年度から学期に一回程度のチャレンジ習慣を設け、チェックしていることで、保護者と児童の意識が近づいてきたのではないかと考える。 ▲ひとりひとりの生活スタイルがちがいがい、習い事で遅くなる児童がたくさんいることもあり、アンケートの数値は伸びてはいない。はやく寝ようという意識を引き出すような指導が必要。
			子どもは学年の目標の時間に寝ている。〔成果指標〕	保護者アンケート	A : ①+②が95%以上 B : ①+②が85%以上 C : ①+②が75%以上 D : ①+②が75%未満	保健安全 B 74.7%	34.3%	
			学年の目標の時間に寝ている。〔成果指標〕	児童生徒アンケート	A : ①+②が95%以上 B : ①+②が85%以上 C : ①+②が75%以上 D : ①+②が75%未満	保健安全 B 73.1%	38.3%	
	安全指導の充実 (町)	けがによる保健室への来室児童は減少傾向にある。	危機管理意識を高くもって、安全な学習環境の整備や日常の安全指導を行っている。	教職員アンケート	A : ①+②が90%以上 B : ①+②が75%以上 C : ①+②が60%以上 D : ①+②が60%未満	保健安全 A 100%	52.9%	
			学校は、 安全な学習環境の整備や不審者対策などに危機意識をもった取組をしている。	保護者アンケート	A : ①+②が90%以上 B : ①+②が75%以上 C : ①+②が60%以上 D : ①+②が60%未満	保健安全 A 96.3%	51.7%	
連携・協働	地域人材の活用、地域交流の活性化による教育活動の充実と地域貢献	開かれた教育課程の実現のために、より一層地域人材の活用・地域交流を活発に行っていくとともに、学校の取組や児童の様子を積極的に発信していく必要がある。	地域人材や施設を活用した授業を行った。〔成果指標〕 ① : 3回以上 ② : 2回 ③ : 1回 ④ : 0回	教職員アンケート 人材活用記録	A : ①+②が80%以上 B : ①+②が75%以上 C : ①+②が50%以上 D : ①+②が50%未満	教務 D 46.2%	15.4%	○昨年度使用した人材施設活用データをもとに各学年が見直しを持って活用することができた。(①+②昨年度より19.5%アップ) ・2学期以降も教育課程と人材施設活用データをもとに計画的に進めていく。
	開かれた校づくりに取り組む学校	学校情報の開示 (町)	各種便りや学校HP等で、 学校や子どもたちの様子を保護者や地域へ分かりやすく伝えるよう努めている。	教職員アンケート	A : ①+②が90%以上 B : ①+②が80%以上 C : ①+②が70%以上 D : ①+②が70%未満	教頭 B 81.3%	18.8%	○各学年、各担当が行事等の際には積極的に写真を撮り、情報を配信する習慣が身に付いてきた。 ◆学年によって、更新の頻度に差があるため、学校全体として声をかけながら更新を促していきたい。また、保護者からも更新頻度を上げて欲しいとの要望もあるため、こまめにアップしていきたい。
働き方改革	町教職員働き方改革方針の目標達成 (町)	業務の適正化を図るとともに、「ノー残業デー」の具現化を図る	ノー残業デーには、特別な場合を除き、6時を目処に業務を終了した。〔成果指標〕 ①毎週 ②月2回程度 ③月1回程度 ④できなかった	勤務時間記録	A : ①+②が80%以上 B : ①+②が65%以上 C : ①+②が50%以上 D : ①+②が50%未満	教頭 C 57.1%	33.3%	○全体として、時間外勤務の時間が減ってきた。また、ノー残業デーではなくても18時までに退庁する職員が増え、時間外勤務を減らそうとする雰囲気は高まっている。 ◆時間外勤務や休日出勤する職員が固定化されている。それぞれの生活スタイルや業務の内容にもよるため個人差があることは仕方がないが、一部の職員に仕事が偏ってしまっていることも原因として考えられる。校務分掌の見直しをすることで改善していきたい。
		定時退庁日に退庁できる職員が少ない。	時間外勤務は、1ヶ月45時間以下である。	教職員アンケート	A : ①が80%以上 B : ①が65%以上 C : ①が50%以上 D : ①が50%未満	教頭 C 59.5%	59.5%	
			時間外勤務は、最も多い月で上限80時間である。	教職員アンケート	A : ①が80%以上 B : ①が65%以上 C : ①が50%以上 D : ①が50%未満	教頭 A 95.2%	95.2%	
学校評議員による意見			・学力調査のための対策はしているのか。→ 弱みを補い、克服するような取組をしている。 ・タブレットを使うことによって、意識がタブレットに向かってしまい、先生の話が入っていないということがないように。 ・楽しそうに背筋を伸ばして学習している様子がよかった。 ・家庭学習に個人差があるのは仕方がない。宿題以外にもがんばれるもの、余裕があるときに取り組めるものがあるのがよい。 ・あいさつがよくなっているように感じる。地域ボランティアとして見守りをしていると、元気にあいさつをしてくれる。特に帰りの様子はよい。 ・不登校は増えていないか。→ 増えてはいないが、登校をためらったり不安を感じたりしている児童はいる。 ・子供たちの様子や状態に合わせて指導にあたって欲しい。 ・学校は地域防災計画に組み込まれているのか。地域防災センターなどと同じように災害時に機能できるとよい。 ・雪の季節の登下校は危ないので、気を付けるように指導して欲しい。 ・通学路の安全が確保されるように、緑ライン、ポール、車両の通行規制などの取組がされるとよい。 ・暑さ対策のために、学校で給水できるとよい。学校の水は冷たくないで、冷たい水があればよい。					